

一般社団法人八大学工学系連合会
2023 年度（第 10 期）第 2 回工学部長会議
2023 年度（第 10 期）第 2 回理事会 議事録（案）

日 時 : 2023 年 9 月 29 日（金）10 : 00～12 : 00
場 所 : ソラリア西鉄ホテル福岡およびオンライン

議 題

- (1) 前回議事録確認
- (2) 入会審議について
- (3) 2023 年度（第 10 期）第 1 回運営委員会
- (4) 運営委員会第 1 分科会：博士フォーラム
- (5) 運営委員会第 2 分科会：若手研究者育成
- (6) 運営委員会第 3 分科会：メッセージ発進のためのデータ収集
- (7) 公開シンポジウム
- (8) The Rising Stars Women in Engineering Workshop (RSE)
- (9) 次回次々回常設会議

配布資料

- 資料 1 出席者名簿
- 資料 2 第 1 回工学部長会議議事録（案）
- 資料 3 入会申込書
- 資料 4 2023 年度（第 10 期）第 1 回運営委員会議事録（案）
- 資料 5 第 1 分科会-2022 年度博士フォーラム-活動状況
- 資料 6 第 2 分科会-若手研究者育成-活動状況
- 資料 7 第 3 分科会-メッセージ発進のためのデータ収集-活動状況
- 資料 8 第 1～5 回公開シンポジウム資料
- 資料 9 The Rising Stars Women in Engineering Workshop (RSE)

開会・総会成立確認

事務局より、一般社団法人八大学工学系連合会 2023 年度（第 10 期）第 2 回理事会、第 2 回工学部長会議の開会宣言があり、議長 幅崎先生の紹介があり挨拶が行われた。

出席者の確認と自己紹介も行われた。

(1) 前回議事録

事務局より資料 2 に基づき、2023 年 4 月 21 日（金）開催の第 1 回工学部長会議議事録確認が行われた。

(2) 入会審議について

幅崎会長より資料 3 に基づき、北海道大学工学院 泉典洋先生の入会について午後の臨時社員総会で審議するとの説明が行われた。

(3) 2023 年度（第 10 期）第 1 回運営委員会議事録

事務局より、資料 4 に基づき 2023 年 6 月 12 日（月）開催の第 1 回運営委員会の議事録確認が行われた。幅崎会長より各分会の主査の先生、議論の内容が説明された。

(4) 運営委員会第 1 分科会：博士フォーラム

主査の尾崎先生より資料 5 に基づき、博士フォーラムの実施計画を報告した。

今年度の幹事校は大阪大学、2023 年 12 月 1 日（金）サントリー記念館（C3 棟）5 階メモリアルホールにて開催予定、テーマは「AI 時代の博士の歩み方～博士ってぶっちゃけどうやねん？」との説明された後、以下の意見交換が行われた。（○尾崎主査 ●出席者）

- AI をどう使うかとドクターコースの中でどういう能力が必要かという組み合わせが難しいかなと感じた。AI にフォーカスすると博士フォーラムではなくなるので難しいかなと感じながら聞いていた。博士人材とどう絡めるかというのを少しくま設計しないといけない。
- 将来的に AI が知識収集のかなりの部分を占めることになるのか、といったことを実際の博士課程の学生が漠然と疑問に思っているというのが議論の始まりだった。「共生」という言葉を使いながら考えている。
- 今のトレンドだと思うし、東大で AI を研究している松尾先生の研究室の学生も博士課程に進んでいて、非常にこのフォーラムは参考になると思う。
- 松尾先生の名前はたびたび耳にしており、ぜひパイプがあればつないでいただきたい。
- AI を使いこなせる博士になって、今後日本を引っ張っていく人材になろうというテーマは非常に共感できる。今博士課程の学生もこれから博士課程に進む学生にとっても非常に良いテーマだと思う。エミュレーション的な面でも AI はこれから非常に有効になっていくと思う。
- 留学生の AI に対する熱量が日本人とは違う気がしてきて、海外の研究者、ポスドクなど

- がどれだけ AI に熱量があるのかというのを日本人の学生にシェアできれば良いのでは。
- 海外や女性などもダイバーシティも考慮して考えている。ワーキングのメンバーには留学生も入っており、海外の方の意見も聞きたいという声も上がっていたので検討していきたいと思う。
 - 博士課程に進む意味、意義を印象付けてもらいたい。AI が出してきた答えの真偽を見極める、取捨選択する。AI が短時間で出してきた答えをどう選択するか、それができる見識を育てていくのが博士課程の意義だよ、責務だよという方向に持って行ってもらえるといいのでは。
 - 今後全てが AI 一色になるのかというところではない。そういったところを博士を目指す人たちにそういったところをぜひ考えてもらいたい。
 - 研究者として企業に入っていく博士について、企業の方としてはどういった AI の技術をもっている博士を求めているかという、企業目線があるといいのではと思う。
 - オンライン、ハイブリッドは考えているのか。メディアは入れるのか。
 - メディアへの配信も含めて検討したいと思う。

(5) 運営委員会第2分科会：若手研究者育成

主査の服部先生より資料6に基づき、令和5年度アンケート調査の対象は修士課程修了者（博士課程に進学しなかったものとする）で調査内容などを説明された後、以下の意見交換が行われた。（○服部主査 ●出席者）

- 社会人博士、リカレント・リスキング教育に関して近いキャンパスに行かないという項目を追加していただければ
- 追加いたします
- 年齢、年収を幅広くとっていただければ
- 若年層は博士の方が修士より給料が高いが、年齢が高くなると同じもしくは修士の方が高くなる傾向がある。博士は研究所に留まるが、修士は50代くらいからマネジメントに移っていくという実態があるので、その辺を把握したうえで調査を継続していきたい
- 社会人ドクターも対象なのか
- 調査に含まれている。4割は社会人ドクター。卒業した大学と博士をとった大学を項目に加えてもよい。
- 女性に限らず、工学部というのは何をしてるのかっていうのは非常に高校以下の学生、教員に説明が難しい。女子学生比率向上の施策となっているが、女性に限らず幅広く工学の魅力伝えていく必要がある。
- 非常に大切だと思うので参考にさせていただく。
- 本人から見た修士と博士の仕事に対する満足度を調べてみても面白いのでは
- 昨年度の調査結果でいうと「博士が必要」だと思う人は8割を超えているが、企業側としては2割程度に留まる。今年度の調査と合わせて博士というのが世の中からどう思われているのかというのを分析していきたい。

- 色々聞きたいことはあると思うがアンケートは項目を増やせば増やすだけ回収率が悪くなる。一部分でもいいので回答をとというだけでも回収率はかわってくる。必須項目と未必須項目に分類すると回収率がかわってくるし、集計も楽になると思う。その辺工夫いただければ。
- 可能な限り選択式にしていきたいと思う。
- 父兄、先生方の理解を進めないで女性学生に関しては反対が起きるので、誰が反対しているのかというのを突き詰めてほしい
- 検討していきます。
- 女子学生、研究者にアンケートをとるとしても、生存者、成功者バイアスがかかってしまう。また女子学生枠導入に関しては、OB など高年齢になればなるほど反対意見が多い。
- なるべく偏りのない回答が得られるようにしていきたい
- （両親は賛成してくれたが）周りから反対されたが、大学の女子学生に対する支援金の募集を見て、自分は歓迎されてるんだとすごく勇気をもらえたという話を聞いたことがある。何がきっかけで入学したのか、そのようなきっかけになったこともアンケートに盛り込んでいただけたら
- 工学へ進むことをあきらめた人の回答が一番知りたいところではあるが、どうやって反対を押し切ったのかなども明らかにしていければ。
- 卒業したての人たちだけでなく、しばらくたった人たちのデータも収集してほしい
- 各大学の同窓会等に協力いただければ可能であると思う。

(6) 運営委員会第3分科会：メッセージ発信のためのデータ収集学生動態調査結果

主査の渡邊先生より資料7に基づき、昨年度に続き「メッセージ発信のためのデータ収集」として学生動向調査として継続する。調査内容などを説明された後、以下の意見交換が行われた。（○渡邊主査 ●出席者）

- 分野の分類が難しいと思うがどうやっているのか。
- 事務局のアドバイスで学校基本調査という政府統計の分類を参考にした。
- 博士進学者の内部進学のうち、どの程度が修士の時に学外から来た人なのか、学士からの継続なのかを集計するのは難しいか。
- そういったデータがあるのか確認してみる
- 政府の取りまとめている分類を見るとかなり古い。時流に合っていないという提案を八大学から出すだけでも違うのでは。
- 専攻名と分類名によって、本アンケート独自のマトリクスを作ろうと思えば作ることは可能であるが、分類が古いのはおっしゃるとおり。
- 今年の5月に十大学理学部長会議ワーキンググループがジェンダー関係でインパクトのあるプレスリリースを行っている。我々も統計結果をプレスリリースやHPへ掲載してもいいのでは。

(7) 公開シンポジウム

事務局より資料8に基づき、今までのシンポジウムの内容を紹介した。

- ・八大学が分化会のアンケートや調査結果の内容等を過去に発信したことはあるのか。
→提言を文科省に提出したことはある。従来道理のシンポジウムを行いつつ、ダイバーシティの発信も新たに行っていく方向性で検討していく。
- ・産業界からの意見をシンポジウムに反映していくなど、産学連携してダイバーシティ発信を行っていくと学生の関心も高いのでは。
- ・出口（産業界）と入り口（中学・高校・高専の先生）からの視点が大切である。
- ・企業と一緒にダイバーシティについて発信する、高校では進路の方向性がある程度決まってしまうので、中学生に対して出口（産業界）が豊富であるということを企業と共にアピールすると良いのでは。等の意見があった。

今年度は2024年3月29日（金）に開催予定となった。

(8) The Rising Stars Women in Engineering Workshop

東京大学加藤先生より資料9に基づき、女性研究者キャリアアップのための国際ワークショップ（RSE）の内容、11月20日～22日東京大学本郷キャンパスで開催案内、八大学からの応募者数と採択者数の報告があった。

(9) 次回次々回常設会議

次回開催：2024年4月19日（金）ベイサイドホテル アジュール竹芝
（東京大学）

次々回開催：2024年9月20日（金）（大阪大学）

東京大学加藤先生、大阪大学桑畑先生より次回開催の案内があった。

事務局より、以上をもって第2回工学部長会議を閉会することの宣言があった。

以上